

2月の植物

ミツマタ（ジンチョウゲ科）

Edgeworthia chrysantha Lindl.

小学生の頃、社会科の授業でミツマタは四国に多く一万円紙幣の原料にすると学んだ記憶が頭の隅に残っていた。早春の富士町山間部の民家の庭に花の形がジンチョウゲの花によく似た黄色い花をつけた低木を見かけた。枝がすべて三つに分かれていてミツマタだと記憶がよみがえり、花の美しさに感動した。

ミツマタは中国中南部原産の落葉低木で室町時代に渡来し、中国地方や四国で栽培され、野生化したものも多い。落葉低木で、枝が3分枝することが名前の由来である。葉は互生、狭長楕円形から披針形で葉柄があり、両面に伏毛がある。花は年枝の上方の脇から出た頭状花に4裂の小花を30～50ほどつける。樹皮は繊維が弾力性に富み光沢があって美しいので、紙幣の材料として重用され、蕾は煎じて多涙症の改善に服用される。花が朱赤色のものをアカバナミツマタ（ベニバナミツマタ）という。佐賀県内では民家や公園に植栽されている。

（文責：井手義信）



富士町 2020.2.21

参考文献：樹に咲く花②佐賀の街路樹・庭園木 薬草ハンドブック 花歳時記大百科